

「瓦版」



2026. April. 1
在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.26

仙台二華高校で行っているカンボジアにおける課題研究の活動内容をシリーズでご紹介しております。

仙台二華高校では、毎年8月（雨季）と12月（乾季）の2回、メコン川フィールドワーク（以下 FW）と称して約2週間、メコン川流域の東南アジアを訪問しています（うちカンボジアには約1週間滞在）。仙台二華高校の課題研究では、「高校生による本気の国際支援」を目指して、住民と一緒に水問題の解決に奔走しています。課題研究のグループはシエムリアップを対象としているものだけでも雨水、バイオトイレ、水質、教育・エコ容器の4グループがあり、FWに参加した生徒は宇宙飛行士さながら、他のグループから依頼された調査を次々にこなしていきます。

第7回は、カンボジアで実施したメコン川FWにおいて、生徒がどのような活動を行っているのかをご紹介します。

～村でのインタビュー～

高校生は3～5人のグループに分かれ、通訳とともに森の中を歩いて各家庭を訪問します。訪問する際には、「今回はマイクロファイナンスの利用状況を調べるため、貧しい家庭・中程度の家庭・裕福な家庭を同数ずつ訪問しよう」といったように、調査方法を話し合いながら決めていきます。マレーシアの農村では、屋根の材料からおおよその生活水準を判断することができ、瓦屋根が最も裕福、トタン屋根が中程度、茅葺き屋根が最も貧しいとされています。生徒たちは、話を聞けそうな家庭を門の外から様子をうかがい、住人と目が合うと笑顔であいさつをし、通訳を通して調査の説明を行います。

各家庭では、1～2名の生徒が約1～1時間半かけて聞き取り調査を担当します。調査内容は、本人や家族の健康状態、家族構成、職業、最終学歴、年収、農地などの資産の有無など、高校生にとっては踏み込んだものです。さらに、研究テーマに応じて、トイレの有無や費用、マイクロファイナンスの利用状況、スマートフォンの契約状況なども調べます。

一方、残りの2～3名の生徒は、その家庭で使用されている飲料水や生活用水の水質調査を担当します。パックテストという簡易的な方法を用いて、COD、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、リン酸態リン、アルミニウム、鉄分などの濃度を測定します。なお、調査対象の村では井戸水に鉄分が多く含まれており、飲みにくいことから、その除去が大きな課題となっています。

調査は、午前3軒、午後2軒の計5軒を1日で訪問します。3つの班で行動すれば、1日に15軒の調査が可能です。これを1回の調査で、多いときには60軒に対して実施していました。

～バイヨン中学校・高等学校への訪問～

私たちは、アンコール・トムの西側にあるバイヨン中学校・高等学校と継続的に交流を行っています。初めて訪問した当時は中学校2クラスのみの小規模な学校でしたが、12年の間に高校が併設され、現在では生徒数約1,000人の学校へと成長しました。しかし教員数はわず



か 15 人とどまっています。

この背景には、カンボジアの深刻な教育人材不足があります。これは、ポル・ポト政権による虐殺の影響によるものです。当時、知識人は徹底的に排除され、眼鏡をかけているだけでも知識人とみなされて殺害されることがありました。その結果、現在でも農村部では、大人の最終学歴が小学校低学年にとどまる場合や、数字を読めない人がいるなど、教育水準に大きな課題が残っています。

本校の生徒の中には、このような環境の中で、現地の生徒がどのように学びを深めていくことができるのかをテーマに研究を進めている者もいます。

～ホームステイ～

参加者は、訪問先の村で 1 泊 2 日のホームステイを行います。夕食は、ホストと一緒にカンボジア料理を作ります。夕方になると、仕事を終えた家族や近所の人々が炊事場に集まり、その日にあった出来事を楽しそうに語り合います。誰が家族で誰が近所の人なのか分からなくなるほど自然に人が集まり、にぎやかな時間が流れます。こうした日常の風景も、大きな魅力の一つです。

夕食後は、満天の星空を眺めたり、近所の子どもたちと遊んだりして過ごします。また、お父さんたちのおつまみとして出されたサソリを分けてもらうこともあります。実際に食べた生徒が「ピリッとすると感想を述べたときには、思わず驚かされました。その夜は、汲み置きの井戸水で汗を流し、今では日本ではあまり見られなくなった蚊帳の中で、並んで眠ります。

翌朝は、午前 3 時頃から鶏の鳴き声が響き始め、目が覚めてしまいます。日本とは違い、鶏の力強さを実感する瞬間です。やがて、寝不足のまま午前 5 時頃には起床します。カンボジアは朝日と夕日が非常に美しく、その魅力は現地を語るうえで欠かせません。まだ暗く肌寒い中、生徒たちは河原に出て、日の出を待ちます。

その後は朝食の準備を手伝います。朝食は、干し魚、ゆで卵、おかゆといった質素な内容ですが、滋味深く味わいのある食事です。こうして一日が始まり、再びインタビュー活動へと向かいます。どのような出会いと学びがあるのか、期待が高まります。

～休日の過ごし方～

カンボジアでの活動は、暑さを考慮し、2～3 日活動して 1 日休養日を設けるサイクルで進めています。休養日と聞くと、最初は楽しみにする生徒が多いのですが、実際には連日の活動で疲れがたまっており、ゆっくり過ごす時間にもなっています。

当日は、朝食を各自で済ませた後、9 時からミーティングを行い、約 1 時間かけて活動の振り返りをします。その後は、これまでに実施したインタビューの文字起こしや、今後の調査に向けた準備を行い、午前中が過ぎていきます。

振り返りの時間には、それぞれが見聞きしたことを共有します。その中でよく出てくるのが、「現地の人々は自分たちよりも幸せそうに見える」という感想です。帰国後、生徒たちは「幸せとは何か」を改めて考えることとなります。そして、その問いが今後の人生にどのような影響を与えるのかとても楽しみです。



宮城の春を楽しもう！

季節はもう春。今回は、宮城県内の桜の名所を3か所ご紹介します。

暖かい春の日差しの中、この季節しかできないお花見をして休日を過ごしてみるのはいかがでしょうか。

①白石川堤「一目千本桜」(大河原町・柴田町)

大河原町と柴田町の中心を流れる白石川の堤に約8kmにわたって1,200本ほどの桜が咲き誇り、例年開催されている「おおがわら桜まつり」「しばた桜まつり」は多くの人で賑わいます。

開花時期には、残雪の蔵王連峰と満開の桜並木が川面に映る、「さくら名所100選」に選ばれている名所です。



②城山公園(涌谷町)

城山公園内の涌谷城跡は、涌谷伊達氏の居城跡で、東北で唯一の現存二層櫓が残っています。

公園内に約250本のソメイヨシノ、ヤマザクラが咲くほか、堤防沿いでは桜の道が楽しめます。

毎年、4月には「わくや桜まつり」が開催されており、夜桜ライトアップなど様々なイベントが催されています。



②日和山公園(石巻市)

約400本の桜が咲く名所(石巻城跡)です。

太平洋をバックに桜を眺めることができる絶景スポットとなっているほか、牡鹿半島、松島や蔵王の山々を一望できます。

市街中心部の高台にあり、近年は慰霊や祈りの場としても知られています。



桜のほかにも、自然、歴史遺産、お祭り、温泉や食事(お酒)など、宮城県の数々の魅力あるコンテンツが皆さんをお待ちしています！



本記事は宮城県経済商工観光部観光戦略課が在仙台カンボジア王国名誉領事館との交流拡大に向けた取組の一環として寄稿しています。